

地域とJAを結ぶ、心ふれあう情報誌



夢彦

2025
vol. 329

ふれあいだより

 JA京都 **にのくに**
<https://ja-kyotoninokuni.or.jp>



ja_kyotoninokuni

公式LINEアカウント
「ふれ愛」



2025年新春座談会

P 2. 新年のごあいさつ

P 3. 万願寺甘とう8年連続過去最高の出荷額を記録

P 4. 2025年新春座談会





新年のごあいさつ

京都丹の国農業協同組合

代表理事組合長 迫沼 満壽

あけましておめでとう
ございます。謹んで新春の
お慶びを申し上げます。旧
年中は格別のご理解ご協
力を賜り、誠にありがとうございます。
本年も変わ
らぬご支援を賜りますよ
うお願い申し上げます。

昨年を振り返ると、「令和の米騒動」に見られるように、日本の食を取り巻く環境が大きく変化した年でした。食料自給率の低下、異常気象による生産への影響、そして農業従事者の高齢化など、私たちの食生活を支える基盤が揺らいでいることを改めて認識させられました。

こうした困難な状況の中でも、JAグループは「私たちの『国』で『消費』する食べ物、できるだけこの『国』で生『産』する」という考え方を、「国産国産」の理念を掲げ、地域に根ざした農業の重要性

を訴え続けてきました。わがJAが掲げる「食が つなぐ地域の農と社会」というスローガンにもあるように、食と農は、人々の暮らしを支えるだけでなく、地域社会の維持発展に不可欠な要素です。

しかしながら、生産現場では生産資材の高騰や気候変動の影響により、農家の経営が厳しさを増しています。一方で、消費者の間では、安全・安心な国産農産物への関心が高まり、地域産品への注目が集まっています。この状況を踏まえ、わがJAは「ブランドを生かした、儲かる農業の実現」という成長戦略を掲げ、農家の所得向上を目指しています。

成長戦略の実現に向け、需要に見合う生産とそれを支える担い手育成を目指す中で、農家に直

接出向き、ニーズの把握と問題の共有を通じて、総合的な事業提案から販売データによる生産販売分析、記帳代行による財務判断まで、JAの強みである総合事業力を活かして、農家をサポートしてまいります。

わがJAが掲げる「食が つなぐ地域の農と社会」の実現には多くの困難が予想されますが、「私たちが創る、未来の地域農業」をテーマに開催した毎年恒例の新春座談会において、若手農業者の皆さまと、若手営農指導員がそれぞれの立場から農業に対する夢や想いを聞き、その実現を確信いたしました。

本年はわがJAにとって新たな挑戦が始まる年です。昨年、JA京都府大会において、「協同の力で食と農の未来を拓く」組合員・地域とともに歩む」

が向こう3か年のスローガンとして提起・決議されました。また、本年は国連が2012年に続き2回目の国際協同組合年と定めたように、食・環境・SDGsなど、社会的な課題解決に向けて協同組合の役割が期待されています。

これらの動きは、株式会社とは異なり、共通する目的のために集い、組合員の相互扶助のための組織である協同組合の役割が世界的に注目されているためです。農業を基軸とする協同組合であるJAは、食と農を通じて社会に貢献する存在であり、その存在意義は食・農を通じた地域への貢献や組合員の願いをかなえる協同活動にあります。そして永続的に社会や地域に貢献するため、組織を維持し発展していくためには、環境変化への対

応と経営基盤の強化が不可欠です。

めまぐるしく変化する社会に対応するには、当たり前前をこつこつとやり続ける「凡事徹底」という姿勢が重要です。環境変化に対応しつつ成長戦略を具体化し、効率化を図ることで、組合員からの信頼と負託に応え、組合員の皆さまとともに、食と農の未来を共創し、持続可能な社会の実現に向けて貢献してまいります。

結びにあたり、組合員はじめ地域の皆さんのJAへのさらなる結集のもと、JAグループ京都をはじめ各関係機関の皆さんのご支援をいただきながら、さらに地域になくしてはならないJAをめざして役員一同努めて参りますので、よろしくお願ひ申し上げます。年頭のごあいさつとさせていただきます。

役員一同

役員一同

【代表理事組合長】

迫沼 満壽

【副組合長理事】

安達 初夫

河野 正一

【代表理事専務】

佐々木 真

【常務理事】

安達 信宏

長澤 睦男

【理事】

岡本 清嗣

中田 義孝

由良 茂文

渡邊 光文

足立 進

荻野 功治

荒賀 淑子

今田 壽孝

矢野 隆一

田端 一男

田中加寿子

市村扶美子

西山 和人

佐藤 正之

【代表監事】

波多野文義

【常勤監事】

向山 吉行

【監事】

藤田 重行

森下 秀子

【員外監事】

細見 祐介

万願寺甘とう

8年連続過去最高の 出荷額を記録

トップ
JA
TOP NEWS
ニュース



当JAの特産品、「万願寺甘とう」の今シーズンの出荷が終了

今シーズンは高温や渇水の影響を受け、8月以降の出荷量が大幅に減少し、市場への出荷が難しくなった時期もありましたが、平均価格は堅調に推移しました。また、通信販売やふるさと納税での取り扱いが数量・金額とも昨年を上回り、2023年より販売を開始した「プレミアム万願寺甘とう」についても昨年を上回るなど、贈答用高級食材として定着いたしました。

出荷量が昨年より厳しい状況下でしたが、10月下旬には節目の出荷額4億円を突破、その後も順調に伸び続け、速報ベースで過去最高の4億4,220万円を達成いたしました。

首都圏でのトップセールス・販売促進活動

これまで「万願寺甘とう」になじみの薄い首都圏への販売促進を目的に、8月に東京シティ青果市場において、岡安万願寺甘とう部会協議会長や関係団体と共に、迫沼組合長がトップセールスを行いました。また、愛知県のセントライ青果での試食会や京都高島屋店頭での販売促進活動など、消費者や市場関係者との交流を通じて、万願寺甘とうを積極的にPRしました。



東京シティ青果市場でのトップセールス

農産物直売所や地域イベントなど 地域に根差したPR活動の展開

農産物直売所 彩菜館での「万願寺甘とう」PRイベントの開催をはじめ、地元量販店や地域イベントでのPR活動や「万願寺甘とう釣り」などを通じて、地域住民に愛される万願寺甘とうとなるよう取り組みました。



子どもたちに人気の万願寺甘とう釣り

未来の地域農業

域の活性化をめざして～

万願寺甘とう生産者
森口 あおいさん

福知山市三和町在住。「担い手養成実践農場」を経て2024年4月より独立する。将来の夢は家族で農業を営むこと。現在2児のママ。2025年1月に第3子を出産予定。

茶生産者
植和田 悠基さん

舞鶴市加佐地区在住。大学を卒業後、戦前より続く家業の茶農園を4年前に継承する。現在は高品質な舞鶴茶の水準を保持し続けることが目標。

主催者
JA 京都にのくに
組合長 迫沼 満壽

開催にあたって

JA 京都にのくに

組合長 迫沼 満壽

昨年は、令和の米騒動など食料問題が注目され、日本の食と農業の基盤に対する関心が高まりました。このような課題が山積みする中、これからの農業の未来を担うのは、まさに若者たちです。2025年の新春にふさわしく、今回は若手農業者である皆さんを中心に、「私たちが創る、未来の地域農業」をテーマに、同世代のJA営農指導員も交えて農業を志した理由や日々の活動、将来の夢などの抱負を語っていただきます。

なぜ農業？ 農業の魅力を語る

四方…まず、農業を志した理由についてお話ください。さまざまな業界や職種がある中で、なぜ農業の道を選ばれたのでしょうか？

2025年
新春座談会

私たちが創る、 ～持続可能な農業と地



主催者 JA 京都ののくに
綾部広域担当 四方 直緒人

綾部西部地域担当。生産者と共に万願寺甘とうの普及拡大に向けたイベントやPR活動を積極的に展開している。



主催者 JA 京都ののくに
福知山広域担当 市川 愛実

大江地域担当。万願寺甘とうやえび芋等の特産物を軸に、組合員・生産者と地域農業を盛り上げるべく奮闘中。



水稻・万願寺甘とう・ブドウ生産者
浦田 士温 さん

綾部市豊里地区在住。水稻を営む祖父と万願寺甘とう農家である母の影響で就農。2025年に祖父が管理する圃場を継承する。

浦田・私の家では祖父が水稻を栽培しています。幼い頃から田植えや稲刈りをする姿が日常の光景でしたが、祖父が兼業農家だったこともあり、農業を「職業」として意識することはあまりありませんでした。農業を「職業」として初めて意識したのは、中学3年生で進路に迷っていた時期のことです。そのとき、祖父の働く姿を改めて見つめ直し、農業という職業について考えるようになりました。その後、農業高校、農業大学校へ進学しましたが、その中で手間をかけて育てた作物を収穫する喜びや、自分の裁量で仕事ができることに大きなメリットを感じたので農家になると決心しました。

森口・私は姉と同じ学校に通いたいという思いだけで農業高校に進学しました。充実した高校生活とさまざまな実習を体験して、楽しい思い出がたくさん残りました。その経験が「農業は楽しい」というイメージを私の頭に刻んだように思います。コロナ禍を機に自然豊かな場所で子育てしたいと京都市内から移住してきたのですが、「せっかくだからあのときに楽しかった農業を本格的に始めてみよう」と就農を決めました。

植和田・僕は浦田さんと同じように、実家が茶農家という環境で昔から農業が身近な存在でした。大学在学中は30歳頃までに舞鶴に戻って家業を継承しようと思っていていました。しかし就職活動を進める中で、茶園を切り盛りする祖母から栽培技術を学べる時間

には限りがあることに気が付きました。そこで内定を辞退して宇治の茶業研究所で1年間研修を受け、就農することになりました。飼育に手間がかかる生き物を飼ったり、釣りに行くのが趣味なので、自分のペースで働ける農業なら趣味も両立できるという点も大きな理由でした。

森口：農業は、努力が成果にはつきりと目に見えるのも魅力ですよ。やりがいを感じます。

迫沼組合長：しかし、気温などの環境要因が大きく、報われないことも多々ありますよね。持続可能性を高めるために取り組みを変える必要がありますが、一度築いたものが壊されることも少なくありません。それでも、わずかな希望を頼りに少しずつでも前進するしかないのです。

市川：昨年は夏の残暑が大変でしたよね。万願寺甘とうなどは作りにくくなかったですか？

浦田：昨年は特に苦労しました。尻腐れなども出て作業も大変でした。

迫沼組合長：お茶は昨年も良かったと聞きました。

植和田：そうですね。昨年は4月、5月の天候が非常に良かったのでいい茶葉ができました。

迫沼組合長：インバウンド需要や輸出も影響していると聞いています。ただ、日本人がお茶をあまり飲まなくなったのは残念ですね。

植和田：でも需要がある方へ向けて製



品を作ることも大切なので、最近では海外市場を視野に入れて輸出対応を進めました。それも評価してもらった結果だと思っています。

浦田：輸出する場合は農薬の規制が非常に厳しいのではないですか？

植和田：かなり厳しいです。舞鶴などの生産地では対応がギリギリという状況です。特にヨーロッパ市場向けでは有機栽培レベルに達しないと難しい規制もありますね。

四方：今では万願寺甘とうなどでも同じように有機栽培に取り組んでいる方々がいらつしやいます。これからの時代に合った作り方を模索していくことが、ますます重要になってくるのかもしれない。

どのような農家になりたいか？

市川：農業の道を選ばれた理由を伺いましたが、これからの夢や希望も教えてくださいいただけますか。



「2024年は新茶の加工や茶葉の働きによって品質が変わる中、“お茶の本質を掴めた”というのが自分にとって大きな成果でした」と振り返る植和田さん。

森口：夫婦で農業に専念するのが夢です。現在、子育てをしながら300本の万願寺甘とうを管理しています。夫が石材会社の農業部でブドウ栽培に携わり、安定した収入を得ているので、失敗を恐れずに挑戦できる環境です。まずは万願寺甘とうの生産を軌道に乗せ、専業農家になるための基盤を作りたい。そして将来的には、夫が培った技術を活かし、自分たちの畑でもブドウを育てたいと考えています。

植和田：昨年まで「舞鶴茶の平均価格を全国一にする」という目標を掲げて取り組んできました。その目標を達成し平均価格で1位を取ることができたので、今後は「現状維持」が目標となりました。市場の状況に恵まれたおかげもありますが、新茶の加工や茶葉の働きによって品質が変わる中、「お茶の本質を掴めた」というのが自分にとって大きな成果でした。これを忘れずこれからも努力していきたいです。

浦田：私はまず、祖父が育てている水稲と小豆をしつかり継承することです



綾部広域担当の職員、四方さんの2025年の抱負は、「スマート農業などの知識を積極的に取り入れ、皆さんに提供できるよう努力すること」。

若手が考える新規就農者の問題

浦田：農業法人を設立したい理由には他にもあります。農業大学校在学中、新規

ね。その上で、学生時代に研究プロジェクトに参加して自宅で試験栽培しながら技術を磨いてきたシャインマスカットの栽培を始める予定でいます。再来年には万願寺甘とうの収量を上げるために、ハウスを増設するつもりです。これらの複合経営が安定してきたら、シャインマスカットなどの収穫体験を通じて交流を深める場を作りたいと考えています。私は人と接するのが好きなので、農業を通じたヒューマンサービスを展開し、ゆくゆくは農業法人として規模を拡大したいという夢があります。

四方：そうした交流の場が広がれば、農業に興味を持つ人や新たに農業を始めたいという人たちとの新しいつながりも生まれそうですね。

就農を目指す人々が直面する現実的な課題、例えば農地や住居の確保の難しさなどを目の当たりにしました。農業法人を設立して安定した環境を提供できるようになれば、新規就農者の受け入れも可能になり、農業の未来に貢献できるのではと考えています。

市川…なるほど。では実際に移住し、新規に農業を始められた森口さんは、どうでしたか？

森口…三和に移住してきたのは、自然豊かな環境で子育てをしたいという思いと、お試し住宅のシステムがあったから。そのお試し住宅も抽選ですからすべてが希望通りにはなりません。私の場合は住宅を借りられただけでなく、地域に万願寺甘とうやブドウなどのブランド特産品があつて就農後のビジョンを描くことができたので、とてもラッキーだったと思います。

浦田…私のところにも、新規就農で独立を希望する人が相談に来られますが、借家がないことや農地が近くにないこと、さらには初期資金の課題で悩ま

れています。そのため、ほとんどが雇用就農を選び、そこから新しい土地を探し始めるという状況です。こうした問題を解決するために、新規就農者を支援できる法人を作ることができれば、導いてあげられるのではないかと思っています。

植和田…浦田さんがおっしゃった「法人化して新規を受け入れ、独立させる」という考えに共感します。実は私もそれに近い内容で大学の卒業論文を書きました。うちは法人化を視野に入れつつ、実際に生産、加工、販売と6次産業を手掛ける中で、大規模展開は自分に向いていないと気が付き、現在は個人経営を選んでいきます。ただ、「舞鶴茶」の存続には、若い人材の確保が欠かせません。今のところ、僕の上の世代が40代以上になるので、もっと若い人を取り込むことが必須条件です。そのために行政とも連携しつつ、指導者としてはまだ未熟ですが、うちの植和田茶園が受け皿となり、次世代の支援ができればと考えています。



「無理がない程度に農地を拡大し、農業を通じたヒューマンサービスを手掛けたい」と将来を語るのは、浦田さん。



「産地を盛り上げる特産品を皆さんと一緒に育てあげたい」と話す福知山広域担当の職員、市川さん。

今の時代にあつた 魅力の伝え方を

四方…新規就農者を増やすにも、支援するにもまずは農業に興味を持つていただくなくてはなりません。皆さんが農業に感じられている魅力をどのように伝えたら良いと思いますか？

浦田…「興味を持ってから初めて農業に触れる」より前に、例えば小学校の体験学習や社会見学などを活かして農業を体験してもらうのが効果的だと思えます。小さい頃に農業の魅力が分かりやすく伝え、印象を残すことが重要だと感じています。

植和田…子どもの頃の体験はとても大事ですよ。それに加えて舞鶴の場合にすぐに人材が必要な状況の場合には、SNSが最も効果的だと思います。スーパーで販売する際に二次元コードを設置し、SNSに誘導するなどです。SNSを使えば、生産の過程などを農

家側が自由に発信できて、興味を持つ若い人にも届くはずですよ。

市川…SNSでしたらやはりインスタグラムですかね。一回調べたら関連でどんな情報が入ってきますから。
四方…森口さんはどうですか？浦田さんや植和田さんはご家族が農業をされるから、就農のイメージを持ちやすかったと思うのですが、森口さんは違いますよね。

森口…そうですね。浦田さんのおっしゃる通りに、子どもの頃から農業体験の機会があるといいですよ。ただ農業を生計にするとなると、現実的な収益が重要です。万願寺甘とうは単価が高く、収入を見込める作物なので「楽しい」だけではなく「安心感」もあります。そのような情報を知る機会があれば「自分もやってみよう」と思う人が増えるのではないのでしょうか。農業を始めるには収益とやりがいのバランスが取れる作物があることを知ることが決め手になると思います。

迫沼組合長…確かに、若い世代に伝えるには、楽しさや収穫の喜びも大事ですが、収入とのつながりも重要な部分ですね。これが施策の大きな要素になります。

植和田…新規就農者を増やすことも重要なのですが、後継者支援も大切ではないでしょうか。親元で就農する場合はすでに基盤が整っているため、新規就農者よりも早く安定した収入を得やすいです。また、農業を継ぐ若者の中に



2025年は家族が増える森口さん。「将来は、夫婦で万願寺甘とうとブドウを生産する農家になるのが夢です」。

は、零細農家の後継者として経験を積んでいく人も多くいます。しかし一方で、新規就農者には支援がありますが、親元就農者には同じような支援が提供されていません。このギャップは、政策の変更なしには解決が難しいのですが、支援が増えれば、若い世代の農業参入が促進されると考えます。

2025年へ。 それぞれの抱負

四方…いろいろとお伺いしました。これからの農業の課題をしっかりと考えてくださっているのが伝わってきます。最後に2025年の抱負をお聞かせください。

浦田…今年から継承を始めますが、祖父が携わってきた作業が自分の責任に変わることには不安があります。しかし、全力で挑戦し、結果をしっかりと分析したいです。成功した点は学びが生かされた証、失敗した点は技術不足だと

認識し、必要なら祖父に再度指導をお願いして基盤を作りたいと思っています。

森口…私は1月に出産予定なので、まずは無事に出産を終えることが一番です。農業では万願寺甘とうの本数を5倍に増やす予定なので、実績作りや収益よりも作業の流れを掴むことを重要にしたいです。基礎をしっかりとこなし、2026年から全力で取り組めるような準備期間にしたいと思っています。

植和田…昨年からインバウンド需要が回復し、お茶の販売が活気づいています。今では品切れ状態で予約しても買えないほどです。今年もお茶の価格は高いままで推移すると予想され、品質管理が重要になります。時期が重なる万願寺甘とうも栽培していて両立が難しいのですが、今年から力を入れ始めたいと考えています。

迫沼組合長…貴重なご意見ありがとうございます。今日は若手指導員が司会を務めました。これも大切な経験であり。最後に職員からも抱負をお聞かせください。

四方…私は2025年で9年目になります。年々変化する環境に合わせた営農指導が重要だと感じ、新しい技術、スマート農業などの知識を積極的に取り入れ、皆さんに提供できるように努力しています。特に若手農家さんは新しい技術に敏感で、私たちも負けずに情報収集し、信頼され、頼りにされる職員になれるよう頑張ります。

市川…昨年の生産振興大会でも発表しましたが、個人的に万願寺甘とうの裏作として同時に進行できるえび芋を推していきたいと考えています。また、堀川ごぼうなども含め、産地を盛り上げる作物を育てていければと思います。そして農家のライフスタイルに合った支援を進め、産地全体を活気づけたいです。3年目の自分としては、まだ知識が足りない部分も多いですが、農家さんのニーズに応えながら営農指導を進めていきます。

迫沼組合長…農業は地域の経済の柱であり、ブランドを活かして儲かる仕組み作りが重要です。最近の気候変動や資材費の高騰などの難題がある中で、需要に見合った生産を確保するためには、新しい技術や知識を取り入れ、改善策を講じることが必要です。特にお茶や万願寺甘とうなどのブランド作物については、



「営農職員を育ててくださるのは、農家の皆さん。期待に応えられるようなサポートを行って、のくにか誇るブランド製品の力を高めたいですね」と話す迫沼組合長。

安定した生産と品質を確保し、需要に応えられるよう努めることが求められています。次代を担う若い農業者が安心して生産活動に取り組めるよう、営農指導員を筆頭に皆さんの現場を支援し、生産性を向上させるために全力でサポートします。今後とも一緒に地域農業を発展させていければと思いますので、引き続きよろしくお願いたします。



座談会 会場

Bayside Place M's deli (ベイサイドプレイス エムズデリ)

海が見える、あたたかい空間で味わう本格魚料理

目の前に広がる海を眺めながら、旬の魚介を使った本格的な和食をお楽しみいただけます。地元の市場から仕入れる新鮮な魚を、刺身、天ぷら、焼き魚など、さまざまな調理法でご提供。その日の一番の味わいを、ぜひご堪能ください。

また、まいづる海自カレーやスイーツもご用意。小さなお子様から大人まで、幅広いお客様にご満足いただけるメニューを取り揃えております。

〒625-0135 京都府舞鶴市千歳897-1 舞鶴親海公園内
TEL 0773-68-1663

JA京都にのくに組合員アンケート結果について

JA京都にのくにでは、組合員・地域住民の期待と負託に応え、安心して暮らせる豊かな地域社会の維持・発展に向けた事業運営に役立てるため、今年8月に組合員の皆さんを対象としたアンケート調査を実施いたしました。ご協力をいただきました皆さんに厚くお礼申し上げます。

つきましては、今月と来月の「夢彦ふれあいだより」にて、アンケート結果を紹介させていただきます。

アンケート調査概要

- ① 対象者 組合員 1,000 名 (第1号組合員 650 名 第3号組合員 350 名)
- ② 回答者数 312 名 (第1号組合員 243 名 第3号組合員 69 名)
- ③ 回答率 31.2%

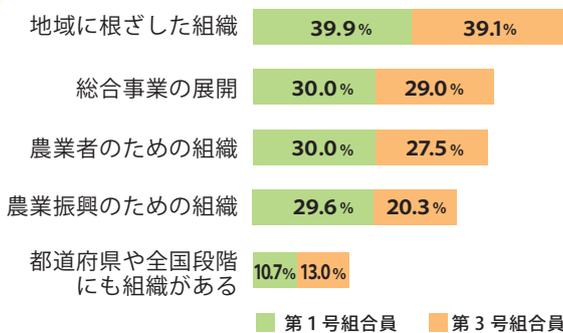
アンケート結果

1. 「JAの事業で農業・地域・暮らしに役立っている事業は何ですか？」(複数回答)

- ① 米・野菜などの集荷・販売と安全な農産物の供給 148人(47.4%) (前回：45.6%)
- ② 貯金・ローンなどの金融 139人(44.6%) (前回：43.7%)
- ③ 共済事業による「ひと・いえ・くるま」の保障 136人(43.6%) (前回：43.2%)
- ④ 肥料・農薬・農機具の購買 121人(38.8%) (前回：41.2%)
- ⑤ 農産物直売所「彩菜館」の運営 112人(35.9%) (前回：38.0%)
- ⑥ 農家に対する農業指導 72人(23.1%) (前回：21.3%)

※前回：2021年2月実施

2. 「JAの良いと思う特徴は何ですか？」(複数回答)

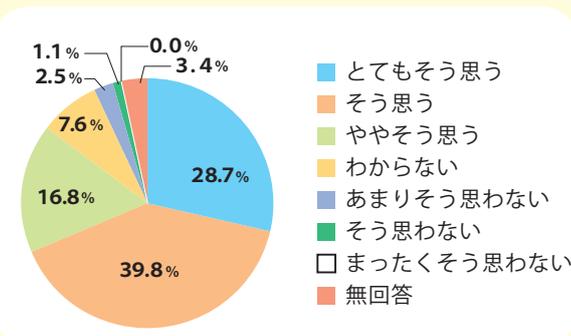


JAの役立っている事業では、安全な農産物の集荷・販売から貯金・共済・購買まで幅広い事業を挙げさせていただいております。

また、JAの良いと思う特徴では、「地域に根ざした組織」が最も多く、「総合事業の展開」「農業者のための組織」「農業振興のための組織」などの回答が続きました。

特に、「地域に根ざした組織」「総合事業の展開」への回答の多さは、組合員に加えて、地域の皆さんの組織として評価されていることを示す結果となっております。

3. 「JAは農業・地域にとって必要な組織だと思いますか？」



JAが農業・地域にとって必要な組織であるか意識調査したところ、80%を超える方々が、「農業・地域にとって必要な組織である」と回答していただいております。

JAといたしましても、皆さんの期待に応えられるよう一層努めて参ります。

アンケート項目以外にもJAに対するご意見を数多くいただいております。今後、アンケート内容をJA運営に役立てていきたいと考えております。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

組合員をはじめ地域住民の組織として、皆さんからの声をJA運営に反映させるため、JA京都にのくには協同活動と総合事業の好循環に努めて参ります。

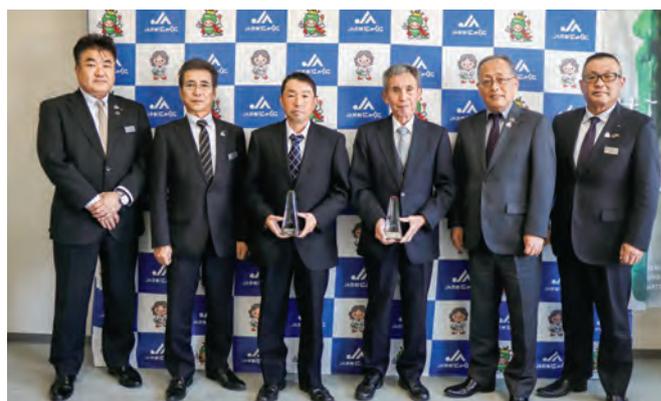
■ 農業振興功労表彰

霜尾喜三さんと鬼の里農園が受賞

昨年11月22日に京都市のリーガロイヤルホテル京都で3年に一度開催されるJ A京都府大会において、地域農業の振興、発展に尽力されています霜尾喜三さん(舞鶴市)と農事組合法人 鬼の里農園(福知山市)へJ Aグループ京都より農業振興功労表彰が贈呈されました。

霜尾さんは舞鶴市加佐地域で、水稻、万願寺甘とう、いちご、ほうれん草など多品目を栽培し、地域農業の担い手として活躍されるとともに、耕作放棄地の減少や新規就農者の支援にも尽力。「若い衆でやるかい」の代表として若手農業者の輪づくりに積極的に取り組まれています。

農事組合法人 鬼の里農園は福知山市大江町で地域の農業の未来を見据え、2年3作のブロックローテーションによる水稻・麦・小豆栽培や鉄コーティングによる水稻直播栽培をはじめ、水害常襲地におけるタマネギ栽培の導入など、地域特性を活かした多品目化にも挑戦するとともに、作業員の安全管理に重点を置いた労務管理など、持続可能な農業の実践に力を注がれています。



霜尾喜三さん(中央左)と鬼の里農園代表廣瀬敬治さん(中央右)



これからの活動について意見交換しました

2025年は国際協同組合年です

2025年は、国際協同組合年と2023年の国連総会で定められました。2012年に続いて、2回目です。協同組合をもっと盛んにして、SDGs(持続可能な開発目標)(※)をもっと現実のものとするために、国連は協同組合を評価、重視し、期待を寄せています。また、国連と歩調を合わせて、世界各国の政府や協同組合に、国際協同組合年を活用することを求めています。

日本国内の協同組合においても事業・活動をさらに発展させ、協同組合に対する認知度を高めていく絶好の機会と捉え、政府や関係者の方々と協力しながら、広く協同組合の理念を伝え、幅広い仲間づくりに取り組んでいきたいと考えています。

国際協同組合年とは

国際年をご存じですか。国連は1957年を国際地球観測年と定めたことをスタートに毎年何らかの「国際年」を設けています。これは、世界に共通する重要テーマについて、各国や世界全体が1年間を通じて呼びかけや対策を行おうとするものです。



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

※ SDGs(Sustainable Development Goals)は、2015年9月の国連サミットで全会一致で採択された「持続可能な開発目標」です。キーワードは「誰一人取り残さない」。2030年を期限とする世界共通の17の目標を設定して、貧困や飢餓、暴力を撲滅し、地球環境を壊さずに経済を持続可能な形で発展させ、人権が守られている世界を実現することを目指しています。

■ ママさん大学

パワースポットを巡る

11月26日から28日にかけて、JA京都府女性組織協議会主催のママさん大学が5年ぶりに開催され、山口県方面2泊3日の旅行に出かけました。あいにくの天候の日もありましたが、参加した女性部員は秋の山口と府内JA女性部員との交流を楽しみました。



やましろ女性部の皆さんと旅の思い出集合写真

■ 輸入拡大に向けた和食晩餐会

駐日大使など招いて京野菜をPR

JA全農と農林水産省は12月10日、東京の迎賓館赤坂離宮にて和食晩餐会を開催しました。晩餐会では万願寺甘とうをはじめとした京野菜を中心に、国産農産物を使った京懐石のフルコースが提供され、食文化と共に食材の魅力をアピールしました。



駐日大使をはじめ多くの方々に味わっていただきました

■ 加佐ふれあい感謝祭

5年ぶりに開催

加佐支店活動活性化委員会は、組合員および地域住民の皆さまへの感謝の意を含め、12月7日に「加佐ふれあい感謝祭」を5年ぶりに開催しました。会場では、地元で採れた新鮮な野菜の販売や、地元女性部による心温まるコーラスの発表など、さまざまなイベントが行われ、来場者の皆さまは久しぶりの感謝祭を満喫されました。



美しいハーモニーを披露されました

■ 野菜の学校

18期生14人が卒業

12月12日、全農京都北部物流センターにて、野菜づくり教室「野菜の学校」の18期生卒業式を開催しました。今年4月から12月にかけての9か月間・17回の講座を修了された卒業生の皆さんに、校長である当JAの村上営農経済部長から卒業証書と共に卒業記念品が授与されました。



一人ひとりに手渡されました

組合員に加入して、 農業と地域の発展を支えませんか？

JAは助け合いの精神に基づき、組合員の営農と生活を守り、より良い地域社会の実現を目指しています。あなたも組合員として、農業と地域の発展を支えてみませんか？

組合員になれば、JAの事業やサービスをよりお得にご利用いただけるだけでなく、農業の振興を通じて安全・安心な食料供給などにもご貢献いただけます。

詳しくは、お近くの支店までお問い合わせください。



■ お米一握り運動

福祉施設にお米を寄贈

女性部舞鶴ブロックの皆さんが中心となって舞鶴市の社会福祉法人4か所にお米を寄贈しました。「お米一握り運動」は30年以上前に旧舞鶴農協女性部がスタートし、合併後は女性部舞鶴ブロックが取り組んでいます。12月3日には女性部員をはじめ、趣旨に賛同した職員などから寄せられたお米や、募金で購入したお米、合わせて150kgを寄贈しました。訪問した施設からは「貴重なお米、大切に頂きます」と感謝の言葉が寄せられました。



多くの善意をお届けしました

農業に関する
様々な質問に
お答えします

営農経済部の 野菜づくり教室



本年も
おもしろく
お楽しみします



キャベツ

やわらかめで、みずみずしい
春キャベツの栽培方法について
紹介します。

【苗づくり】

1月～2月末までに種まきを
します。128穴のセルトレイ
に1穴に1粒ずつ種をまきます。
中丹地域は平均気温が10℃を下
回ります。土の温度が低くなり
すぎると苗が軟弱になってしま
うため、日中は太陽が当たる屋
根の下に置き、早朝や夜といっ
た日が当たらない時間は被覆
資材や新聞紙を被せて保温し
ましょう。苗は本葉4枚で完成
です。

【圃場準備】

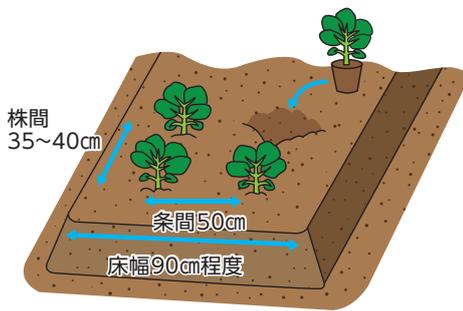
植え付けの2週間前に苦土石
灰を1aあたり10kg、和知有機
を1aあたり70～150kg、に
のくに有機を1aあたり30kg施
用します。

【定植】

3月以降に定植をします。条
間50cm、株間40cmで2条植えを
します。

【害虫防除】

アオムシ、コナガ、アブラムシ
などの害虫防除が必要です。定
植後、水やりをする前にブリロッ
ソ粒剤を1株あたり1g株元に
施用します。



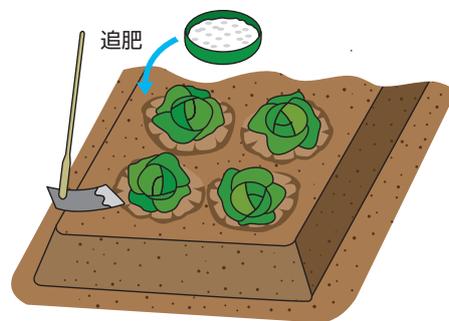
定植適期：平均気温10℃以上
(ソメイヨシノの開花のころ)
それ以前の植え付けは被覆資材で保温する。

防除は1回では効果が切れて
しまうため、結球前の防除とし
て、アデオン乳剤を2000
倍に薄めて1aあたり10～30ℓ
施用します。

【追肥・中耕】

追肥を定植後1～2週間後に
します。収穫期が高温・多雨の
影響で裂球・球腐敗が発生しや
すい時期のため、中耕も兼ねて
早めに施し、栽培後期まで肥効
が残らないようにします。中耕

すること、除草だけではなく
畝内の通気・排水をよくし、根
の生育を助けることができます。
野菜の達人を使用する場合は、
1aあたり7kg施用します。



中耕を兼ねて畝の端に追肥し、土寄せする。

【収穫】

5月～6月に収穫をします。
上から押してみても、若干の弾力
を感じるくらいで収穫をします。
球がつかまるまで待たずに、早め
に収穫をしましょう。

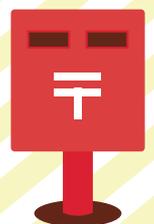


手で押してみても、若干の弾力を感じる
うちに収穫。
春まき栽培は早めの収穫を心掛ける。

野菜に関する
疑問・質問
大募集!!

野菜づくり教室は、農業に関する様々な質問にお答えするコーナーと
なりますので、ハガキやEメールでどしどしお寄せください。
皆さまからの声をお待ちしております。

〒623-0053 京都府綾部市宮代町前田20番地
JA京都にのくに 営農経済部 野菜づくり教室 係
einoukikaku@ja-kyotoninokuni.or.jp



12/10

ドライフラワー・クリスマスリース教室

豪華で可愛いリースの完成



natural factory pole pole の高村由起子さん
を講師に招いて「ドライフラワー・クリスマスリース」
作りに挑戦しました。自然のものを活かした、世界に
一つのオリジナルリース作りに参加者の皆さんは、時
間を忘れて夢中になりました。



joseibu-dayori

だより



午前・午後の各回15名。30名の女性部員が参加しました。



バランスのととり方が難しく、先生のアドバイスを受けながら作業が進められています。

12/16

JA京都府女性部・家の光活動体験発表大会で最優秀賞

JA京都府女性部・家の光活動体験発表大会が京都JAビルで開催され、女性部活動の部
で三和支部の荒木悦子さんが発表され、最優秀賞を受賞されました。



「おもしろ おかしく70歳 今を生きる」
～人も地域もJAも巻き込んで～
と題した活動体験発表をする荒木さん

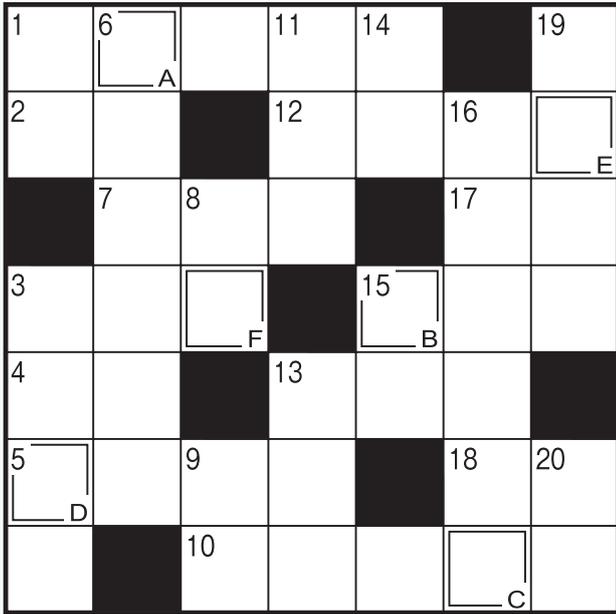


発表された荒木さん(前列右から2人目)と
応援に駆けつけた本部役員と三和支部の皆さん

クロスワードパズル

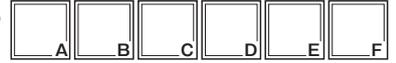


締め切りは 1月23日(木)
【当日消印有効】発表は2月号



解き方

タテ・ヨコを全部解き、A→Fの二重ワクの文字を順に並べてできた言葉が答えです。



タテのカギ

- ① 教育・勤労・納税は国民の三大——です
- ③ 気仙沼の名物、サメの加工品
- ⑥ さいころや角砂糖はこの形
- ⑧ 封書を数えるときに使う言葉
- ⑨ キラキラ光る——入りのセーター
- ⑪ 風を受けて水上を進みます
- ⑬ 地銀よりも規模が大きめ
- ⑭ といで炊きます
- ⑮ 水で洗い物をするとかじかむことも
- ⑯ 多くが九州で作られている酒
- ⑰ こ、これぐらい平気だい!
- ⑳ チョキがはさみならパーは

ヨコのカギ

- ① 2月14日に職場などで配る人もいます
- ② リンゴの品種。
青森県北東部に同じ名前の市があります
- ③ 天気が崩れて——が強まった
- ④ 寒い日にはこりやすくなる人も
- ⑤ 節分にイワシの頭を刺して飾ります
- ⑦ 紅茶の茶葉とお湯を入れます
- ⑩ 熱心に後輩を指導する、——のよい先輩
- ⑫ 看護師——ともいうナースステーション
- ⑬ 和歌山県には奈良県と三重県に囲まれた——があります
- ⑮ 不利の反対語
- ⑰ 古代インド発祥のエクササイズ
- ⑱ じゅうたんを敷く所

おたより募集

郵便はがきまたは、Eメールにクイズの答えを下記要領でご記入の上、ご応募ください。正解者の中から抽選で、10名様にのく商品券(1,000円)をプレゼントいたします。また、「伝言板」と「アートギャラリー」に掲載分ものく商品券(500円)をプレゼントさせていただきます。

メールアドレス / ninokuni@ja-kyotoninokuni.or.jp
Eメールで応募の際は**件名に「クロスワード応募」とご記入ください。**

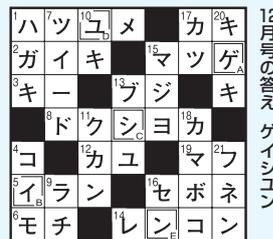


① クイズの答え
② おたより・イラスト
③ ご意見
④ その他

②～④については、各コーナーで紹介する場合があります。



※お寄せいただいたハガキ・Eメールの個人情報につきましては、各コーナーの目的以外には使用しません。
※氏名の掲載を希望されない方は名前の横にペンネームをお書きください。



12月号の答え
ゲイシユン

※クロスワードパズル
当選者の発表は
賞品の発送をもって
代えさせて
いただきます。

今月の「組合員のひろば」はお休みします

「払戻請求書」・「入金申込書」・「振込依頼書」など伝票変更のお知らせ

平素はJAバンクをご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

当JAでは、JAバンクの窓口端末にかかるシステム更改に伴い、新たなシステムでの窓口業務を開始しております。

新システム導入に伴い、「払戻請求書」や「入金申込書」、「振込依頼書」など一部伝票の様式を変更いたしますのでお知らせするとともに、「払戻請求書」や「入金申込書」、「振込依頼書」などの旧伝票(現行伝票)をお手元にお持ちの場合、お取引ある各支店窓口にて使用期限等をご確認いただきますようお願いいたします。

ご不便をおかけしますが、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

▶▶▶▶▶11月末 事業取扱高 ◀◀◀◀◀

| | | |
|-------------------|---------------------------|----------------------------|
| ● 組合員数 19,955人 | ● 貯金残高 1,612億9,618万円 | ● 長期共済保有高 4,211億5,850万円 |
| | ● 貸出金残高 420億8,041万円 | ● 購買品供給高 7億3,633万円 |
| | ● 長期共済新契約高 116億3,010万円 | ● 販売品取扱高 15億8,411万円 |

理事會報告

協議事項

- ①次期総代・役員改選に向けた考え方
- ②2024年度上期ディスクロージャー誌の発行
- ③労働組合からの要求

- ③2025年度水稲苗単価
- ④2024年産米の出荷実績
- ⑤利益相反取引完了報告
- ⑥京都府農業政策の確立と予算に係る要請
- ⑦共済金の支払状況
- ⑧余裕金の運用状況
- ⑨金融円滑化の対応状況

- ⑩不良債権状況報告
- ⑪地方公共団体等に対する貸付金
- ⑫2024年度上期マネーロンダリング等の防止に係る対応状況
- ⑬代表運営委員会の開催
- ⑭年末年始の営業
- ⑮組合員の加入・脱退

報告事項

- ①月例報告
- ②2024年10月末事業実績の概況

無料法律相談会開催（予約制）

組合員の皆さまが日常生活で直面するあらゆる法律の相談にお答えします。

綾部会場

とき 2025年2月25日◎
13:00～16:00

ところ JA京都にのくに 本店
(綾部市宮代町前田20)

福知山会場

とき 2025年3月4日◎
13:00～16:00

ところ JA京都福知山支店
(福知山市 字篠尾小字長ヶ坪115-12)

※当組合福知山支店ではございませんのでご注意ください。

担当弁護士 弁護士法人
小西綜合法律事務所所属弁護士

2025年2月14日金までに企画調整室 (Tel:0773-42-5566) までご連絡ください。後日お申込書を送付させていただきます。

2025年 農林業センサス

農林業センサスは、5年ごとに、我が国の農林業を営む方や農山村の実態を明らかにする調査です。農林業の実態を知ることで見えてくるさまざまなことから日本の農林業の未来を考える基礎資料となります。

2025年
農林業センサス
キャンペーンサイト



<https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc/2025cp/cp99.html>

あとがき

あけましておめでとうございます。今月号では、恒例企画「新春座談会」を5ページにわたりお届けしました。今年のテーマは「私たちが創る未来の地域農業」です。若手農業者と営農指導員の方々に、熱い想いを語っていただきました。私も収録に同席し、生の声を聞く貴重な機会を得ました。この経験を活かし、今年一年、広報誌をより充実させていきます。本年も「夢彦ふれあいだより」をどうぞよろしく願いいたします。〈ヒロ〉



おたよりをお待ちしています!

夢彦ふれあいだよりでは、読者の皆さまの声を多くご紹介したいと考えています。身近なエピソードや地域の話題、イラストや写真など、どしどしお寄せください。本誌に採用させていただいた方には農産物直売所「彩菜館」などでご利用できる「にのくに商品券」をプレゼントします。

〒623-0053 綾部市宮代町前田20
JA京都にのくに 企画調整室

Eメールでもどうぞ
ninokuni@ja-kyotoninokuni.or.jp

※作品・写真は返却できません。おたよりは誌面に掲載する場合があります。
※作品・写真はInstagramで紹介させていただく場合があります。
※応募で記載された個人情報は「掲示板」への掲載、プレゼントの発送以外には利用いたしません。



第23回 JA京都にのくに 生産振興大会のご案内

日時：2025年2月4日(日)
13:00～

場所：綾部市中央公民館
(綾部市里町久田21-20)

参集範囲：組合員
(代表運営委員・生産者部会役員・
営農組織・青壮年部など)
関係機関、JA役職員



一昨年の様子



JAバンク 優遇ポイントサービス

JAバンク優遇ポイントサービスは、JAバンクとのお取引内容をポイントに換算し、個人のお客さまのATM入出金手数料や個人ネットバンク振込手数料の優遇を行います。



たとえば

組合員になっていただくだけで

★提携ATMの入出金手数料が
月2回まで無料

★個人ネットバンク振込手数料が
月1回まで無料

さらに、

給与や賞与の受取口座に
JAの貯金口座をご指定いた
だいた場合(1カ月間に5万
円以上のご入金が1件以上)

★提携ATMの入出金手数料が月5回まで無料
★個人ネットバンク振込手数料が月2回まで無料

または、

国民年金や厚生年金など公的年金の受取口座にJAの貯金口座をご指定いただいた場合(1年間に1回以上入金があるもの・対象となるのは実際のご入金後となります)は、

8月1日より、新たにJAカード利用(当組合口座からの引き落とし)・個人インターネットバンキングご利用などでもポイント付与の対象となりました。詳しくは支店窓口までお問い合わせください(ポイントは自動的に付与されます)。

優遇ポイントサービスの詳細は、
最寄りの支店までお問い合わせください。

提携ATM

セブン銀行・ローソン銀行・
イーネット(ファミリーマートなど)・ゆうちょ銀行

2026年度 職員募集 のお知らせ

来春、大学・短大・専門学校等を卒業される方、社会人として経験のある誠実で活力ある人材を募集しています。

JAは一般企業と違い、組合員が出資し、協同活動によってお互いの利益を高めていくという、人と人とのつながりを大切にしている組織です。地域の農業を振興し、地域社会に貢献するとともに、全国段階まで連合組織が整備された日本中に仲間の広がる団体でもあります。また、厚生年金、健康保険、退職金制度等、社会保障の制度も整備しています。

地元の農業と農家のために、やる気と熱意のある方の応募をお待ちしております。

募集対象 来春大学、短期大学、専門学校を卒業される方、及び、40歳(昭和60年4月2日以降に生まれた方)までの社会人経験者

募集人員 15名程度 **受付期間** 随時

応募書類 ①履歴書(学校所定またはJIS規格)
②各学校所定の書類
(卒業見込証明書、成績証明書)

一次試験 筆記、適性検査・作文(5月予定)

二次試験 面接
一次試験合格者に文書で
通知します。

採否の決定 2025年6月1日以降に
通知いたします。



詳しいことは、右記まで
お問い合わせください。

京都丹の国農業協同組合 企画管理部
〒623-0053 京都府綾部市宮代町前田 20

人事総務課

TEL 0773-42-2092

E-mail jinji@ja-kyotoninokuni.or.jp